

2019年度第3四半期 決算説明資料

2019年11月7日

株式会社太陽工機
(証券コード:6164)

1



第3四半期
決算概要

2



トピックス

3



Q&A

売上高 79億円（前年同期比 +12.4%）

営業利益 13億円（前年同期比 +12.3%）

営業利益率 16.9%（前年同期比 ±0.0p）

▶ 第3四半期累計としては、売上・営業利益ともに過去最高を更新

受注高 56億円（前年同期比 ▲45.6%）

▶ 米中貿易摩擦の影響を受け、ユーザの設備投資は様子見基調

▶ 自動機・システム機化により1台あたり受注金額 前年同期比 +7.4%

株主資本比率 77.2%、無借金経営を継続

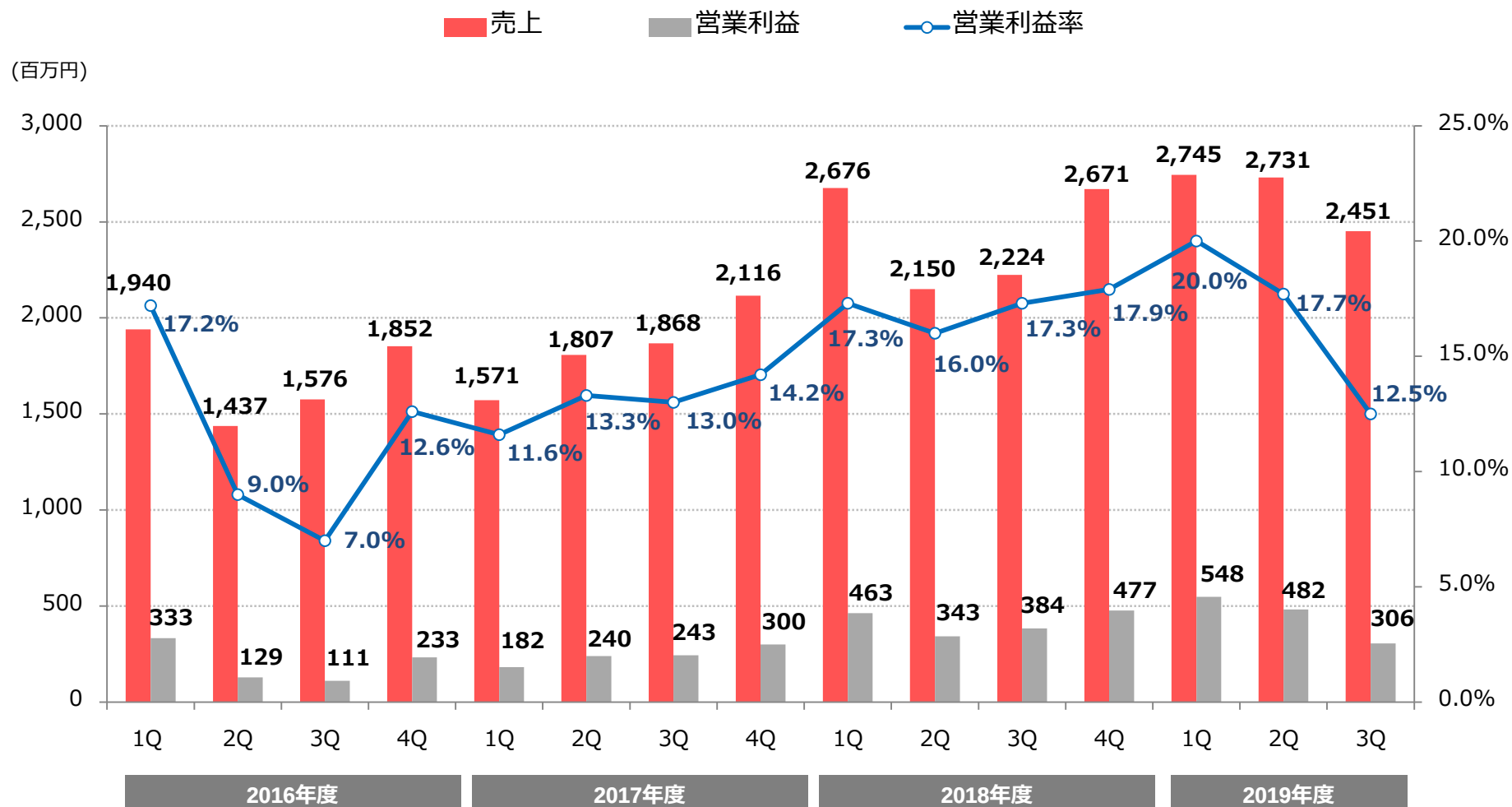
▶ 6期連続増配（2019年度：年間配当50円を予定）

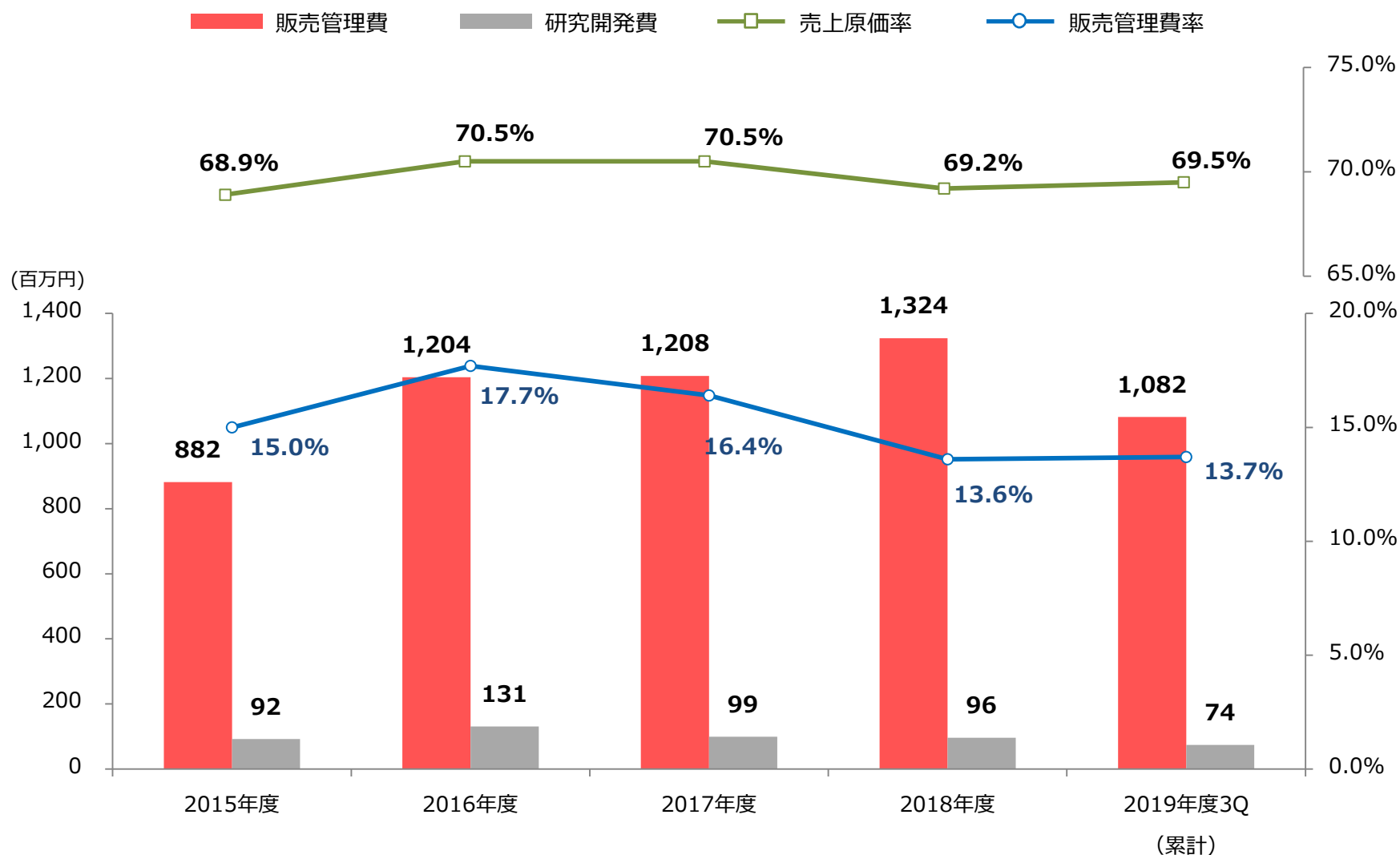
Financial Statement

第3四半期 決算概要

過去最高の売上と利益 (1-9月)

(百万円)	3Q (1-9月)		前年同期比	通期 (1-12月)		前年比
	2018年度	2019年度		2018年度 (実績)	2019年度 (公表値)	
売 上	7,051	7,928	+12.4%	9,723	10,800	+11.1%
営 業 利 益	1,192	1,338	+12.3%	1,669	1,920	+15.0%
営 業 利 益 率	16.9%	16.9%	±0.0 p	17.2%	17.8%	+0.6p
経 常 利 益	1,185	1,338	+12.9%	1,660	1,910	+15.1%
当 期 純 利 益	796	921	+15.7%	1,157	1,310	+13.2%





※2015年度は決算期変更により2015年4月から12月までの9ヶ月決算となっております。

貸借対照表 (B/S)

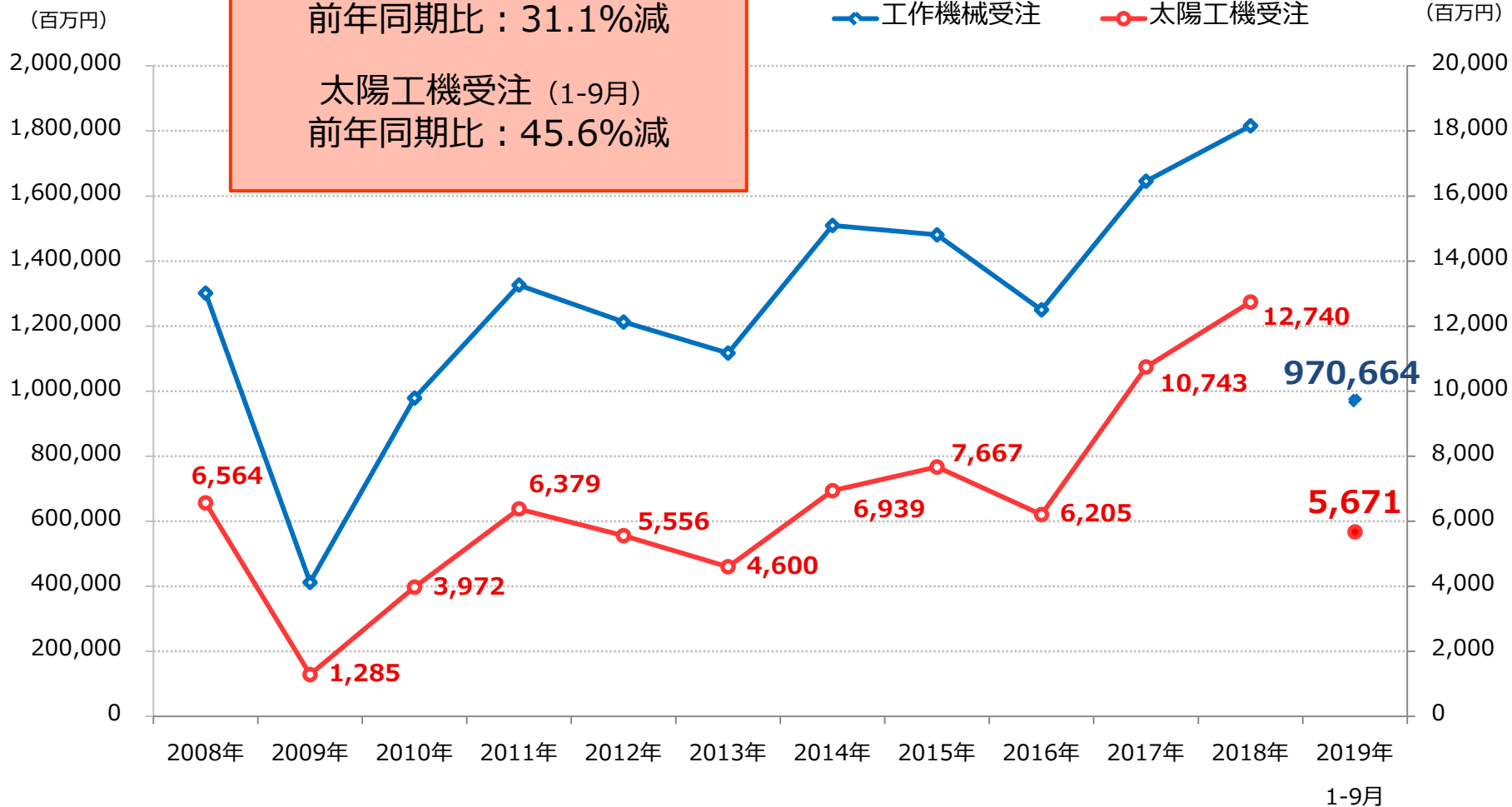
TAIYO KOKI

(百万円)	2018年度	2019年度	
	12月31日	9月30日	増減
資産の部			
流動資産	6,007	6,407	399
現金及び預金	386	1,179	792
売掛金	2,228	2,141	△ 87
棚卸資産	2,633	3,023	390
関係会社短期貸付金	700	－	△ 700
その他流動資産	58	62	3
固定資産	1,260	1,342	82
建物	531	509	△ 21
土地	297	312	15
その他有形固定資産	177	270	93
無形固定資産	46	48	2
繰延税金資産	96	99	2
投資その他資産	111	101	△ 9
資産合計	7,267	7,750	482

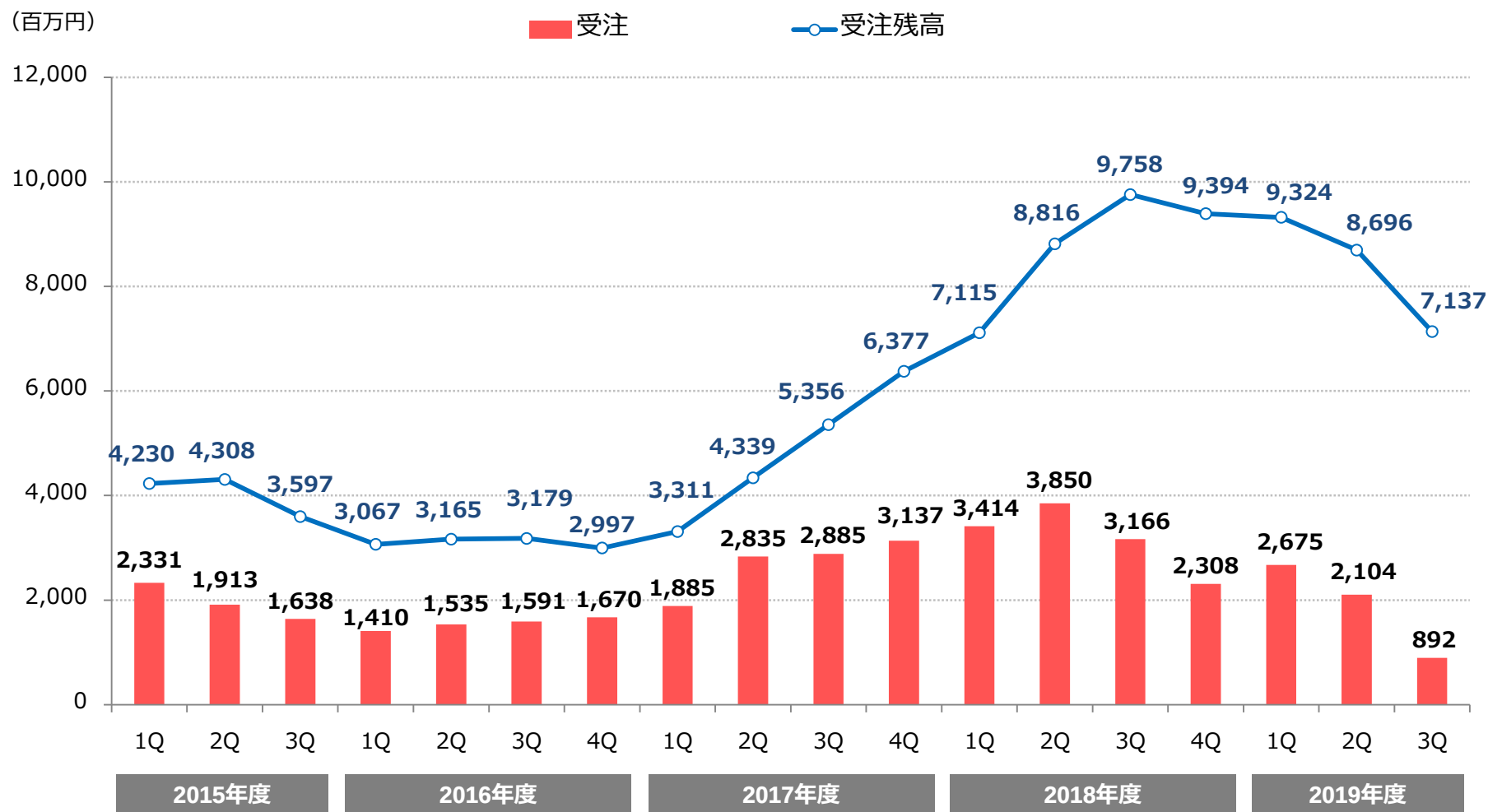
(百万円)	2018年度	2019年度	
	12月31日	9月30日	増減
負債純資産の部			
流動負債	1,939	1,376	△ 563
買掛金	460	514	53
リース債務	484	72	△ 411
未払法人税等	388	171	△ 217
製品保証引当金	89	70	△ 18
役員賞与引当金	－	20	20
その他流動負債	517	526	9
固定負債	0	391	391
リース債務	0	360	360
長期未払金	0	30	30
純資産	5,327	5,982	654
株主資本	5,327	5,982	654
負債純資産合計	7,267	7,750	482

工作機械受注

太陽工機受注

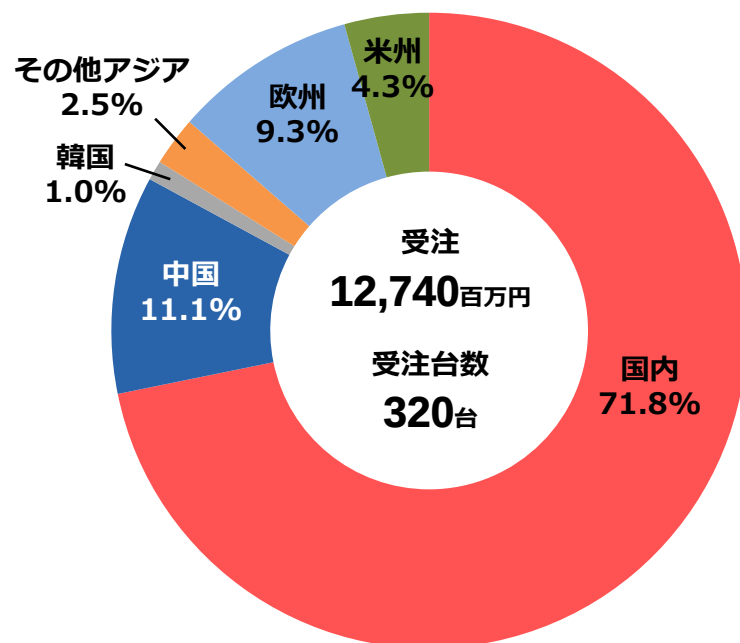


※工作機械受注…日本工作機械工業会受注実績より



※2015年度は決算期変更により2015年4月から12月までの9ヶ月決算となっております。

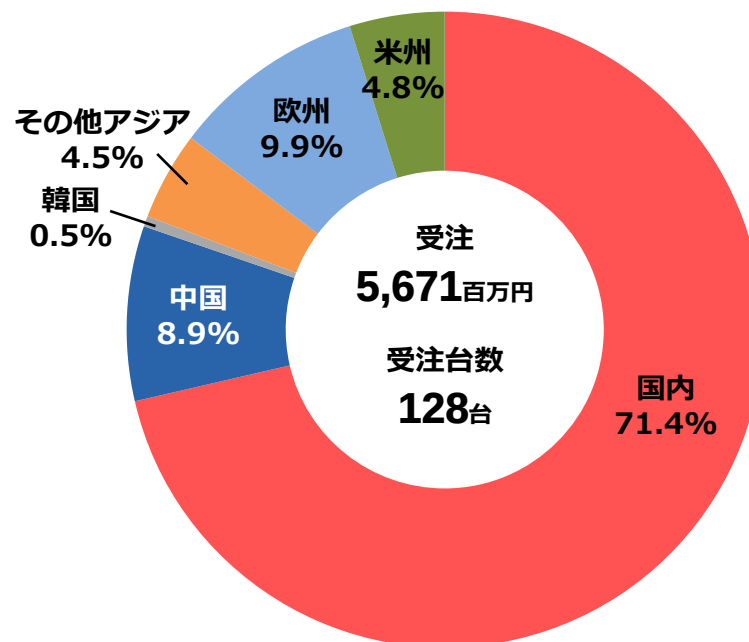
2018年度 通期



海外 **28.2%**

うち海外現地ユーザ 20.4%

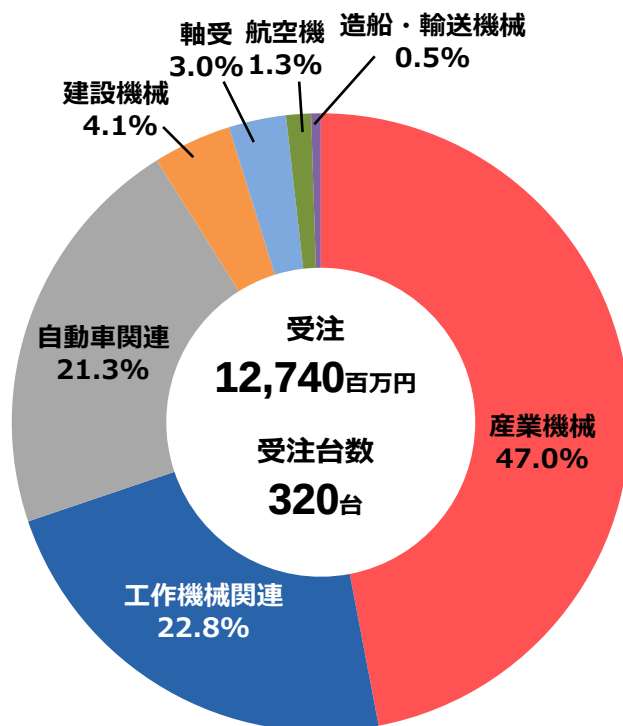
2019年度 3Q(累計)



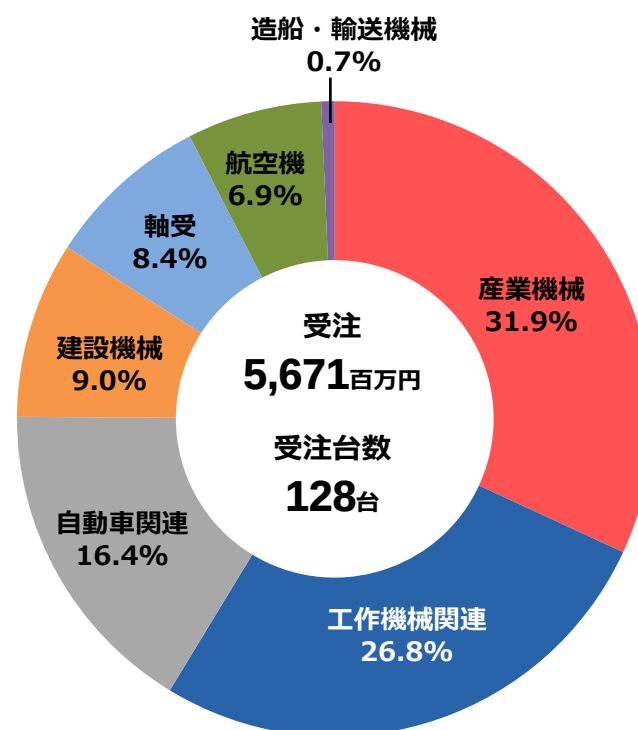
海外 **28.6%**

うち海外現地ユーザ 24.3%

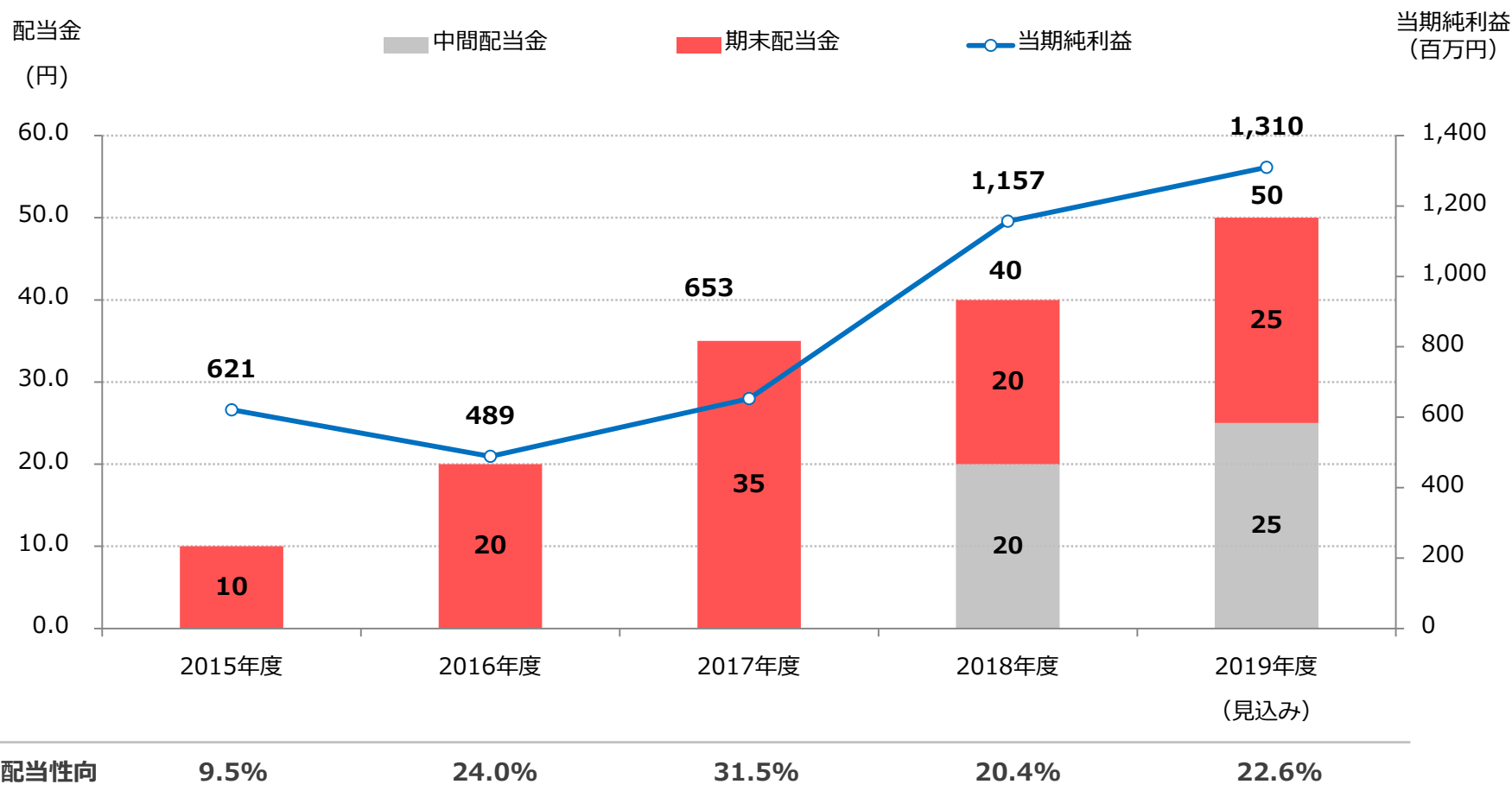
2018年度 通期



2019年度 3Q(累計)



配当は6期連続増配



※2019年度より株式分割後（2分割）の配当金となっております。

※2018年度以前の数値は各期を比較しやすいよう、株式分割後の金額にて記載しています。

Topics

トピックス

EMO Hannover 2019

2019年9月16日～21日 開催地：ドイツ

ブース来場者 約500名

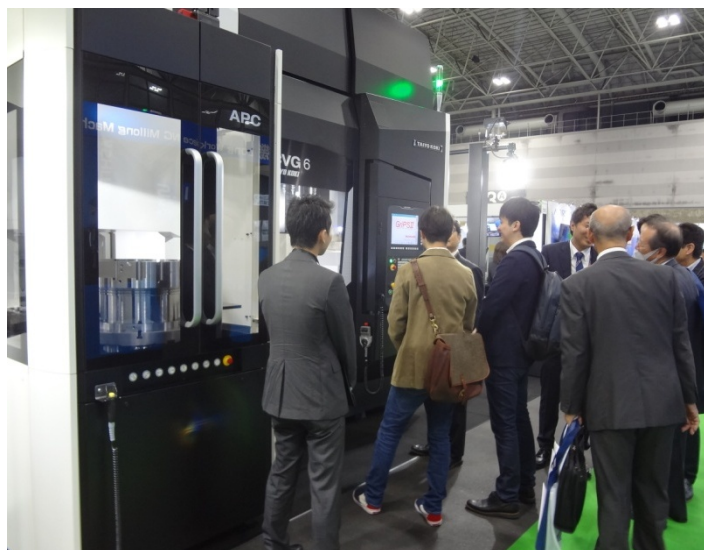


受注・引合を獲得するとともに、欧州にて当社の認知度向上を図る

メカトロテックジャパン 2019

2019年10月23日～26日 開催地：名古屋

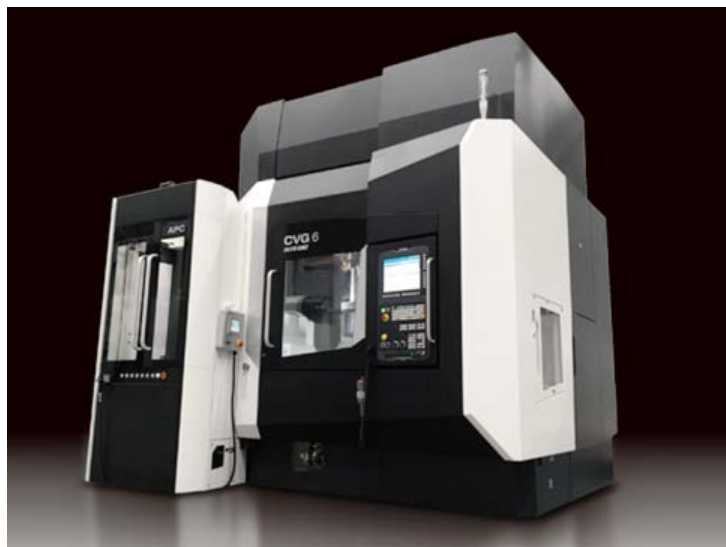
ブース来場者 約1,100名



独自の自動化システムを提案し、引合・受注を獲得

CVG-6

EMO Hannover 2019 / メカトロテックジャパン2019 出展



- ▶ 生産能力を飛躍的に向上させる
APC（オートパレットチェンジ）装置を
標準オプションとして採用
- ▶ 加工時間を約40%短縮した最新モデル

IGV-3NT（NEWデザイン）

メカトロテックジャパン2019 出展



- ▶ 当社ベストセラー機をリニューアル
 - ◆グローバル展開を見据えたデザイン変更
 - ◆操作性の大幅な向上
- ▶ コンパクトな機体ながら複合加工が可能
- ▶ 自動化システムの拡張にも優れた
新世代のオールラウンダー

SRS スマートロボットシステム

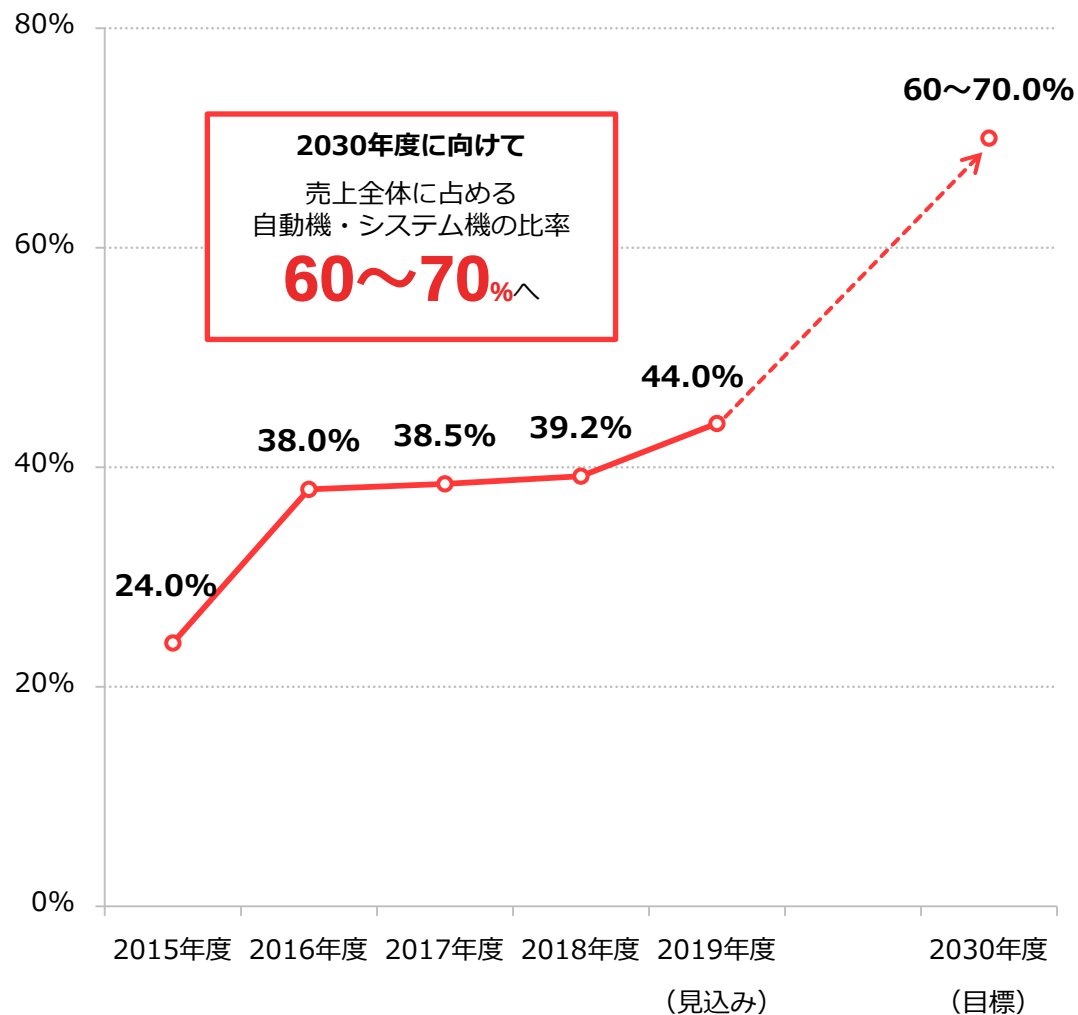
メカトロテックジャパン2019 出展



▶ 自動化システムの省スペース化を実現

ロボットを機械側面に天吊設置し、
ロボット下部の空間をワークストックとして有効活用

※写真ではSRSを「USG-2CL」に搭載



2020年度は12件の展示会に出展予定（2019年度は10件）

国内外の展示会に継続出展し認知度向上を図る

2020年度 展示会出展情報		開催期間
Grind Tec 2020（ドイツ）		3/18~3/21
(株)東陽 展示会 TOYO イノベーションフェア 2020（刈谷）		3/5~3/6
(株)共和工機プライベートショー（沼津）		3/26~3/27
DMG森精機(株) 伊賀 イノベーションデー（伊賀）		5/19~5/23
DMG森精機(株) シカゴ イノベーションデー（アメリカ）		5月予定
昭栄産業(株) STF昭栄テクニカルフェア（三条）		5月予定
Robot Technology Japan（常滑）		7/2~7/4
(株)太陽工機 プライベートショー 2019（長岡）		7月予定
IMTS 2020（アメリカ）		9/14~9/19
AMB 2020（ドイツ）		9/15~9/19
METALEX 2020（タイ）		11月予定
JIMTOF 2020（東京）		12/7~12/12

Questions & Answers

Q&A

 Index

・ 2019年度第3四半期の受注状況について …p.21

・ 2019年度の着地見込みについて …p.22

・ 来期の見通しについて …p.23

・ 配当政策について …p.24

・ 新工場建設の進捗状況について …p.24

Q : 2019年度第3四半期の受注状況について

A : 2019年度第3四半期（1－9月）の工作機械業界は、長引く米中貿易摩擦やBrexit等世界情勢の影響を受け、第2四半期に続き国内外で設備投資への慎重姿勢が見られました。日本工作機械工業会によれば、工作機械受注は前年同期比で31.1%減少しております。

当社もこうした影響を避けられず、第3四半期までの受注は56.7億円と、前年同期比で45.6%減少しました。要因としては、前年度当社受注全体の47.0%を占めていた産業機械関連企業向け（特に半導体・ロボット関連）が大きく減少したことや、第3四半期以降、それまで好調だった自動車関連企業において設備投資を様子見する動きが特に顕著となったこと等が挙げられます。

こうした経営環境のもと、当社は自動機・システム機の開発を進め、お客様の生産性向上ニーズに即した提案活動に注力いたしました。また、世界最大級の国際展示会「EMO Hannover 2019」や今年度国内最大規模の「メカトロテックジャパン 2019」に出展し、当社の技術力・提案力をアピールするとともに当社ブランドの浸透に努めてまいりました。

■ Q : 2019年度の着地見込みについて

■ A : 2019年度は、売上108.0億円、営業利益19.2億円、当期純利益13.1億円を見込んでおります。第3四半期累計の年次計画に対する進捗率は、売上で73.4%、営業利益で69.7%となっており、第4四半期についてはすべて現在の受注残高からの売上であるため、年次計画は達成できるものと考えております。

Q：来期の見通しについて

A：現在、当社受注は減少傾向にあるものの、引合件数については概ね例年並みに推移していることから、お客様の設備投資意欲は減退しておらず、受注の落込みは一時的なものと認識しております。当社としては、2019年第3四半期を底にしばらく厳しい受注状況が続くと予想しておりますが、日本工作機械工業会は2020年4－6月頃から受注が回復に転じるとの見解を示しているように、来期からは徐々に好転するものと見込んでおります。

2020年度上期の売上は、現在積み上げている受注残高により確保できる見込みですが、下期以降については今後の受注状況が大きく影響します。

今後市場動向を注視し、お客様の需要を確実に受注へと繋げるよう営業活動に注力してまいります。また、引き続き各展示会を中心に積極的な拡販に取り組み、特に海外向け受注の伸長を図っていく方針です。

なお、来期見通しの具体的な内容につきましては、今後の決算開示資料等にてお伝えしてまいります。

Q : 配当政策について

A : 2019年度は、1株当たりの配当金を50円（利益予想に対する配当性向は22.6%）としております。中間配当25円はお支払い済みであり、期末配当25円については2019年12月31日（火）を基準日としてお支払いする予定です。今後の配当政策については、新工場の土地及び建物等の設備投資資金を考慮しつつ、配当性向30%を目標として検討していく方針です。

※2018年度の通期配当は80円でしたが、2018年12月31日付で1株につき2株の割合で株式を分割しておりますので、実質的には前期比25%の増配となっております。

Q : 新工場建設の進捗状況について

A : 現在のところ、当初計画からの変更はありません。

建設予定地である長岡市西部丘陵東地区では、予定通り土地造成工事が進められております。来期の計画としては、2020年6月に第1期土地（61,800㎡）を取得予定です。

TAIYO KOKI

IRに関する
お問い合わせ先

株式会社太陽工機 管理部

TEL: **0258-42-8808** URL: **<http://www.taiyokoki.com>**



【将来予測について】

当資料には、当社の目標、計画などの将来に関する記述が含まれております。これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づく判断及び仮定に基づいております。今後の経営方針転換、外部要因の変化により、将来的に実際の業績と大きく異なる可能性があります。なお、不確定性及び変動可能性を有する要素は多数あり、以下のようなものが含まれます。

- 為替相場の変動
- 当社が営業活動を行っている市場内における法律、規制及び政府政策の変更
- タイムリーに新商品を開発し、市場に受け入れられるようにする当社の能力
- 当社が営業活動を行っている市場内における政治的な不安定さ

【お取り扱い上のご注意】

本資料は、当社をご理解いただくために作成したもので、当社へ対する投資の勧誘を目的としておりません。本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。本資料中の情報は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであります。